

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（一般研究）

研究代表者 所属・職名 芸術・体育教育学系（美術）教授

氏 名 高石 次郎

研究期間 平成27年度～平成28年度

研究費 1,200,000 円

研究プロジェクトの名称	国際交流作品展を軸とした本学の美術教育研究の発信と相互交流
研究プロジェクトの概要	<p>平成23年度に、台湾新竹教育大学と上越教育大学の美術コースの交流展覧会が始まり、これを機に双方の大学院への留学や教員の招聘等の研究交流へ発展してきた。この交流展覧会の今後の発展と継続は、本学の教育目標である「21世紀型能力/アクティブラーニング」や「グローバル化」に貢献することが期待される。平成27年度からは、本学協定大学である内蒙古民族大学とカレル大学の参加も予定されている。また、この国際交流は大学院定員充足にも大きく寄与している。</p> <p>教育大学と同様に美術教育の存在意義が問われている今日において、上述の教育目標を意識しながら、本学美術科目群が実践している自主的・臨床的な美術教育を展覧会という場を軸として国内外に発信し研究を推進することは、子ども・人間・学校・社会に貢献する美術教育の役割を問い直し、教育大学における固有の美術の有り方を明確にする「<u>美術と教育が生きる力や学びの層で通底する教育実践学</u>」の構築へとつながると考えている。</p> <p>この研究が、関係する国内外の学生や教員にとっても、美術や美術教育の存在意義を再認識する機会となり、人間が生きる上で教育や美術が重要であることを再確認する方向に展開していきたい。</p>
成 果 の 概 要	<p>■平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流展覧会を日本（上越）と台湾で開催した。</li> <li>研究協力者である包格日樂吐氏を招聘して講演・研究交流を行う。</li> <li>交流展覧会において、本学（出来れば各大学）の各教員が独自に行っている特色ある教育・研究の内容と教員・学生の作品を紹介し共有した。また、台湾の教員の教育・研究交流を実施した。</li> <li>美術教育の根幹をなす「構想し作品を作ること」と「作品を見て感想を共有すること」という間には、作品を見せる場／見る場（＝展覧会）が介在する。ここには、形や色の非言語や言葉に成らない感情などを発端とした美術ならではのコミュニケーションが発生する。このような表現から鑑賞までを一貫することによって立ち上がってくる美術が持つ自主性・リアリティを伴う学びを明らかにした。</li> </ul> <p>■平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の交流展覧会（展覧会は隔年開催）について、東京、上越、台湾、内蒙古、チェコでの開催を検討し準備を進めている。</li> <li>国内での資料収集を行った。（愛知芸術大学、東京画廊 等）</li> <li>今後の継続研究の下地となることを考慮しつつ、本研究を総括する報告書を作成した。今後、この報告書を研究諸機関に配布、また、学会などで発表する。</li> </ul>
研究成果の発表状況	平成28年度の大学美術教育学会でポスター発表を行った。